

理科におけるアクティブ・ラーニングの三つの視点からの不断の授業改善について（案）

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、**深い学びの過程**が実現できているかどうか。

理科の学習では、自然の事物・現象について、「科学的な見方・考え方」を用いて、知識・技能を習得したり、思考・判断・表現したりする学習を通じて「科学的な見方・考え方」がさらに成長するとともに、より主体的に取り組む態度が育成される。

例えば・・・

- ・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定や観察・実験の計画を立案したりするなど課題解決に向けて科学的に考える学習場面や、学習の過程を振り返って変容を自覚する学習場面を設けること。

など

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・課題の設定や検証計画の立案、観察・実験の結果の処理、考察・推論する場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後、互いに意見交換したり、議論したりして、より多面的・総合的に考察し、自分の考えをより妥当なものにする学習場面を設けること。

子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学びの過程**が実現できているかどうか。

例えば・・・

- ・観察・実験の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりする学習場面を設けること。
- ・得られた知識や技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりする学習場面を設けること。